

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

八谷委員長よりあいさつ。

2 議題

（1）「健康いわくら21」第3次計画の年次評価について

[資料 1-1] [資料 1-2] [資料 1-3]を用いて、事務局より説明。

事務局：欠席委員より、事前に意見をもらっている。

[資料 1-3]で30代の歯科健診受診率が目標と大きく乖離している。働き盛り世代にとって、平日の受診ハードルが高いことが、JAの若手職員や農業従事者を見ていても実感するところだ。店舗窓口や広報誌を通じて、健診の重要性の周知に協力したい。

委員：前回会議の資料では分野別の取組内容が提示され、今回の[資料 1-2]はライフコースアプローチを踏まえた取組に変わっているが、9割方そのままの内容だ。せつかく視点を変えたのに、その意義がよく分からなかった。

担当課の表が付いて分かりやすくなった点は評価できるが、例えば高齢者の歯と口腔で、高齢者担当のはずの長寿介護課が×になっていると、関係団体も含め全く連携が出来ていないように見えてしまう。課を跨いだ横断的な取組というものはここには表れてこないのか。

今年度の進捗状況の評価は来年度に行うというのは承知したが、今はもう3月なので、1年間実施して見えてきた課題について、この会議で多少なり示されるものと期待していた。

事務局：この資料については、12月の時点で各課に照会を行っているため、実績を踏まえての報告は来年度改めてする予定である。

×になっている箇所についても、今後、連携の方法を模索していきたい。例として、高齢者のサロンに健康課から職員を派遣してオーラルフレイルなどについて啓発するといったことを、先方から依頼があったときだけでなく、健康課から働きかけて実施したい。

委員長：一覧になり、非常に分かりやすくなったので、課題発見のきっかけにしてほしい。また、×か○かの2択になっているが、中間の選択肢があっても良いと思う。

事務局：全く関りがない課は「/」や「—」にすることも考えている。

委員長：先ほどの委員の意見で、計画にマルチパートナーシップとして挙げられている関係団体の取組状況も一覧に入れた方が良いのではないかという意見だったが、それはいかがか。

委員：一覧の中でなくとも良いが、何かしら関連はあるはずなので、表現してもらいたい。例えば、高齢者のところで言うと、JA、ゆうわ会、シルバー人材センター、社会福祉協議会など。

今回の計画は、健康増進計画と食育計画を合わせて作られたはずだが、食育の方で抜け落ちた部分が多いように感じる。それを充実させるためにも、関係団体のことも含めて報告があると良いと思う。

委員 : [資料 1-2]に「周知する」という表現が複数ある。そのフォローをどうしていくのが問題だ。

また、高齢者の心の健康を守るという観点で、高齢者と若年層が交流できると良いと考える。資料の中にも、歩け歩け大会などのイベントの記載があるが、子どもや若年層の参加は少ない。イベントを企画する際にはそういうことも考えていただけると良いと思う。

[資料 1-2]のレイアウトに関して、文字が非常に小さくて見にくい。取組の列に担当課の名前は入っているのだから、右側の○×の列を無くして、その他の文字を大きくできないか。

事務局 : ○×の列を維持したまま、文字を大きくできるよう、ページを分割する方法を考えたい。

委員 : [資料 1-3]で、30歳の受診率が指標に挙がっているが、「行政の取組」欄の3で、かかりつけ医を持つことを推奨しているように、普段から定期的に受診していて受診券を使わない人もいと推測されるので、実態としての受診率の把握は難しいように思う。この指標は、受診券が届いた人のうち、その受診券を使って受診した人のみを対象としているということか。

[資料 1-2]の「子ども一地域、社会」の行に、子ども会の入会案内の記載だけが取組として挙がっているが、子ども会に入らない家庭に対してはどのように気になった。

また、ライフステージの分け方で、女性だけあって男性はなぜないのかが疑問だった。例えば、骨粗しょう症は男性でも4分の1くらいはかかり、骨折後の死亡率は男性の方が高いらしい。

「栄養・食生活、食育」の行で、やせている人が多いと記載があるが、どのように調べたのか。また、やせの原因が過度なダイエットによるものと絞られているような書き方が気になった。

事務局 : 歯科の受診率については、受診券が届いた人のうち、その受診券を使って受診した人のみを対象としている。個別勧奨の効果を測るという観点から、そのような出し方をしている。委員の言う通り、市ではかかりつけ医を持ち定期的に受診することを推奨しており、令和5年度に行った生活習慣関連アンケートによる評価の中では、「年1回歯の健康診査を受けている人の割合」を指標にしている。

委員長 : なぜ女性のみ取り上げているのかという件については、実は過去にも議論している。国の計画等に従ったということだったと記憶している。

他に、子ども会に入っていない家庭への対応や、原因をダイエットに限定しない女性のやせの対策など、きめ細やかなところを計画に反映させてはどうか

という意見であった。今年度の評価と、来年度への取り組みに反映させていってほしい。

また、データを解釈する際の注意点も、注釈のような形で入れると分かりやすくなると思う。

委員 : 先ほどの高齢者の心の健康という意見に関連して、今年の岩倉市のカレンダーの2月に児童館の地域交流会の様子が掲載されている。長寿介護課と健康課だけでなく、一覧表に表れていないところで連携は行われていると思う。他にも、料理だったら、生涯学習課や商工農政課も関係しているはずだが〇はついていない。単純な〇×だけでなく、連携していることが分かるようにすべきだと考える。

また、先ほどの委員の質問で、女性のみ取り上げるのはなぜかという点は、これまで男性中心に考えられていた医療を、性差医療ということで、女性ホルモンの影響を考慮したりする動きが進んでいるため、国の方でも子ども・高齢者・女性を別で取り上げている。

ただ、[資料 1-2]の女性の欄に、歯と口腔が無かったのが気になった。妊娠中などで女性ホルモンが多くなると歯肉炎になりやすいといったことに対する対策があっても良いのではないかと思った。これは計画には入っていなかったことだが、今後手直しをするならば考えていただきたい。

また、女性の生活習慣に「保健センターを会場とする特定健康診査と同日に肺がん検診を実施し、受診しやすいよう配慮する」とあるが、なぜこれが女性の所に入って来るのか気になった。

事務局 : 先ほど、子ども会に対する意見があった。入会する人が減ってきているのが大きな課題になっている。役員をやるのが負担だから、高学年になる前に退会するという人もいるという事実もある。ここでは、子ども会自体をまず存続させようということで、取組として挙げているのが現状である。

事務局 : 「保健センターを会場とする特定健康診査と同日に肺がん検診を実施し、受診しやすいよう配慮する」は委員の言う通り、女性に限った話ではないため、令和8年度に実施する調査では、がん検診に含めることとする。

(2) 令和8年度の保健事業について

[資料 2-1] [資料 2-2] [資料 2-3] を用いて、事務局より説明。

委員 : 令和7年度の話になってしまうが、令和7年度の補正予算で予防接種事業が5,200万円の減額となっている。これはどういう減額なのか。

事務局 : 当初予算では、予防接種の対象者のうち一定割合の人が接種する見込みであるとして予算を確保する。今年度の減額の要因になったのは主に、新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種者の減少で、昨年度の時点で接種者は減少傾向にあったが、今年度は更に半数に減っている。

委員 : [資料 2-1]の「プレママと産後ママの交流会」について、パパの交流会のようなものはないのか。協働安全課のイベントに参加した際にも話題に挙がっていた。

「マタニティホットライン」の返信が2~3日後になると記載されていて、返信まで時間がかかるなど感じた。ネットで調べた方が早いようにも思えるが、それでも人に相談したいという人がいるのか。実際どれくらい利用があるのか。また、「マタニティコール」「おめでとうコール」は希望者だけなのか、全員の電話番号を把握しているのか教えて欲しい。

事務局 : 父親の交流については、「プレママと産後ママの交流会」と「パパママセミナー」の実施回数の比率を、今年度は「パパママセミナー」の方を増やした。その中で、父親同士が話せるような時間を取っている。また、子育て支援センターや児童館でも、同様の取り組みを増やしている。

メールについては、土日祝を挟んでしまった場合を想定して2~3日後としている。実績については、年間1~2件程度である。委員の指摘どおり、ネットやAIで調べてしまった方が早いという状況もあり、今後どうしていくのかは課題である。

「マタニティコール」「おめでとうコール」については、妊娠届の提出時に電話番号を把握しているので、全員を対象としている。その形になったのは、伴走型相談支援というものが始まった令和5年度以降である。

委員 : メール相談について、最近はLINE相談を採用しているところが増えてきている。AIに聞くのではなく、やはり人に相談したいという人も多く、メールよりもLINEの方が話している感覚で聞けると思うので、検討してはいかがだろうか。

事務局 : LINE相談については、県の方で実施されているので、市でもということは考えていない。逆に市としては、このような時代だからこそ、直接、電話や対面で話すことに力を入れている。

委員長 : [資料 2-3]のヒトパピローマウイルス感染症の予防接種は男性も対象か。

事務局 : 女性のみである。

委員長 : 男性が接種する場合は任意接種となり、特に助成等も行っていないか。

事務局 : 助成等の制度もない。

(3)「新型インフルエンザ等対策行動計画」の改定について

[資料 3] [資料 3 別添] を用いて、事務局より説明。

事務局 : 欠席委員より、事前に意見をもらっている。

市民生活および市民経済に及ぼす影響の最小化が基本理念に盛り込まれていることを支持する。コロナ禍では、経済活動の停滞が地域農業や流通に大きな影響を及ぼした。感染対策を徹底しつつ、市民の命を支える食料供給インフラとしての機能を維持することは、JAの使命であると考えており、有事の際いかに

して経済活動、流通販売を止めずに、健康保護と両立させるかという点において、準備期からの具体的な連携体制の構築を期待する。

委員 : 国、県、市と計画が下りてきたということで、主語が市に置き換わっているが、岩倉市独自の記載箇所はあるのか。

事務局 : 委員の見込みどおり、もともと国計画で「国及び県及び市区町村は」などとなっている記載を、「市は」と置き換えているところが大半で、完全に市独自で記載したのは、9ページのコロナ禍における岩倉市の取組など、ごく一部のみである。国から、最低限計画に入れるべき事項を示した「手引き」が示されていて、それ以上に追加している項目はいくつもあるが、県計画からの引用がほとんどである。

委員 : [資料3]の「6 対策項目の概要」「⑦市民の生活及び地域経済の安定の確保」の初動期には遺体の火葬・安置の記載しかない。準備期でしたことを、初動期で確認するなど、何かしら記載できることがあるのではないかと思うが、県や他の自治体も同様なのか。

事務局 : 国から示されている「手引き」にも、それしか記載はない。また、準備期に記載した項目を、初動期に確認するという、繰り返しは基本的にはされていない。ただ、委員の言うように、1つしか書かれていないのを疑問に感じるのは、もっともな意見だと思う。

委員 : 準備期にしたことを、対応期では拡大・強化するということが行為としてあると考える。

事務局 : いただいた意見を反映させて、その後、県で確認を受ける工程があるので、全て岩倉市の案がそのまま通るわけではないが、委員の皆さんの意見を取り入れて、より一層市民のためになる計画としたいので、ご意見をいただきたい。

委員長 : 市民生活の視点で、重要な内容があるかもしれないので、意見をいただきたいと思う。

副委員長 : 健幸づくり委員会での意見聴取は、計画の策定に必須ではなく、委員会としての決議も取らないということであれば、今回議題とする必要はあったのか。そういった説明を初めにしておくべきであったと思う。

事務局 : 計画策定時においても、この委員会の前身である健康づくり推進協議会で意見を聴取していることもあり、同様に意見を伺いたいと考えた。

事務局 : この委員会の所掌事務には確かに明記されていないが、この計画に対し皆さんの視点で感じるところを知りたかったということである。

副委員長 : この計画はどのようなタイミングで発動し、初動期、対応期に切り替わるものなのか。また、感染症の種類はどうか。

事務局 : 有事の際には国からの発表によって切り替わる。また、季節性インフルエンザのようなものは対象外となる。

副委員長 : 例えば、最近では、夏場に百日咳が流行して、そのとき中国から来た菌の9割が耐性菌だったという感染研の発表もあり、死者が多く出てもおかしくない状況で

あったが、国がこの計画の対象であると位置づけなければ発動しないということか。

事務局 : その認識である。

委員 : 感染症ではないが、アメリカの同時多発テロの際は、公共施設は全て瞬時にシャットダウンした。それと比べると、感染症という違いはあるが、この計画は対応期において公共施設の利用停止を検討するとなっていて割とのんびりしている印象を受けた。

(4) その他

事務局より事務連絡の後、会議終了